

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 5 回相模原市橋本地区における美術施設の整備に関する検討委員会				
事務局 (担当課)		文化振興課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 2 (直通)				
開催日時		令和元年 6 月 1 7 日 (月) 1 7 時 0 0 分から 1 9 時 1 0 分まで				
開催場所		アートラボはしもと 会議室				
出席者	委員	4 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	9 人 (市民局次長、文化振興課長、他 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		事業者を公募する際に提示する条件や審査項目案の審議について、公開することにより、競争性が損なわれるおそれがあるため。				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) アートラボはしもとの後継施設の運営及び施設の考え方について (2) 事業者募集における条件案等について【非公開】 (3) その他 3 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

事務局より浜田委員及び日沼委員の欠席について報告を行った。また、事業者募集における条件や審査項目案に係る審議については、公開することにより、競争性が損なわれるおそれがあることから、議題(2)事業者募集における条件案等については、非公開とすることで決定した。

2 議 題

(1) アートラボはしもと後継施設の運営及び施設の考え方について

事務局から資料に基づき説明を行った後、質疑応答及び審議を行った。

専門職員として配置を予定しているテクニシャンについてだが、必要となる能力として「美術館または類似施設において展示設営などの活動経験を3年以上有する者」とあるが、この中に新卒者は含まれるのか。

新卒者でも大学などで展示の活動経験があれば、対象に含めたいと考えている。

○就業していなくてもよいか。就業していなければならないとなるとアーティストは含まれないことになってしまわないか。

就業については求めず、活動経験を重視したいと考えている。

○デザイナー兼広報は1名配置する予定か。1名配置であるならば他の職員とも連携しながら業務を進めないと対応しきれないのではないか。

デザイナー兼広報は1名配置したいと考えている。また、チラシ、ポスター、活動記録集の作成など情報発信を中心となって担当してもらうが、学芸員や美術専門員と調整しながら業務を行う想定でいる。

○デザイン制作と広報のどちらの能力に長けている人を優先させるかを考えると、戦略的に広報活動を行えるなど発信力を高められる能力に重きを置いた方が良いと思う。そのため、選考時に作品のデザインを重視しないよう留意いただきたい。

○デザイナー兼広報は非常勤を想定しているため、実務経験があるからといって業務を一任するのではなく、学芸員がデザインや広報の内容について適宜指示を出すなど、確認する体制を整えた方が良い。

○美術専門員については、学芸員の資格を有していなくとも勤務している事例が他でもある。資格よりも経験値を重視すべきと考える。

○ボランティアスタッフの活動場所となる仮称スタッフルームは、常時自由にボランティアが利用することが可能な諸室とする想定か。

打合せなどを行う際に必要に応じて利用することを想定している。

○運営及び事業実施に係る協議体に関連するが、毎年第三者による外部評価は実施し

ていく予定か。

毎年実施するかまでは決めきれていないが、定期的の実施したいと考えている。

- 外部評価は1年間の取組の中で見えた課題などを検証し、迅速に改善に向けて取り組んでいく観点から毎年実施する必要があると考える。今回提案された協議会での議論も大切なことだが、第三者によるチェック体制も重要である。客観性を持って事業を評価する体制を検討いただきたい。

再度整理して、次回の検討委員会でお示しさせていただく。

- 協議会の委員構成案を見ると多くの主体が関わるようだが、運営委員会としての結論がまとまるのか気掛かりである。また、後継施設で実施する事業については学芸員が主導して企画立案することになるため、実施主体が新アトラボであることを明確にして事業を展開していく必要がある。

協議会の体制についても、次回再度お示しさせていただく。

- 後継施設で想定している実施事業が、想定面積1,200平米の中に配置する各諸室の中で実施できるという検証がなされたと理解してよいか。また、各種コーナーについては、有効活用されるような場所となるよう工夫して設計をする必要がある。各諸室の面積配分は様々だが、現段階における検証としては想定実施事業を展開する必要諸室が想定面積内で収まったため、その理解で問題ない。

- 後継施設に市民が何を求めているのかは、よく調査した方がよい。それによって実施する事業の内容も変わってくる。

昨年度、市民の皆様から意見を募集して、公園との一体利用による事業の実施など様々な意見をいただいたところである。そうした中で、後継施設では現施設における先進的、実験的な取組を引き続き実施していく想定であり、今後も様々な主体と連携しながら、また、ご意見も伺いながら事業を展開いきたいと考えている。

(2) 事業者募集における条件案等について

事務局から資料に基づき説明を行った後、質疑応答及び審議を行った。

議題となった事項については、次回引き続き審議することとした。

(事業者募集における条件や審査項目案に係る審議であって、公開することにより、競争性が損なわれるおそれがあることから、内容は非公開とした。)

(3) その他

次回の審議会の開催予定について確認した。

3 閉 会

以 上

相模原市橋本地区における美術館の整備に関する検討委員会
委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	あまの 天野 たらう 太郎	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野	委員長	出席
2	こばやし 小林 たかし 貴史	東京造形大学		出席
3	はまだ 浜田 ひろあき 弘明	桜美林大学リベラルアーツ学群		欠席
4	ひぬま 日沼 ていこ 禎子	女子美術大学芸術学部		欠席
5	もりわき 森脇 ひろゆき 裕之	多摩美術大学美術学部	副委員長	出席
6	やまぎし 山岸 あや 綾	法政大学デザイン工学部		出席